平成２７年度

授業改善プラン

Ⅰ　「目黒区学力調査」の概要

Ⅱ　平成２６年度「授業改善プラン」の検証

Ⅲ　「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン

・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）

・第１学年～第３学年

平成２７年７月

目黒区立第十一中学校

Ⅰ　「目黒区学力調査」の概要

１　調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリュキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第２学年～第６学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

２　調査の内容

(1)　調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

	１　年	２　年	３　年
対象数	８１　　人	６７　　人	７４　　人
実施数	８０　　人	６５　　人	６８　　人
受検率	９９　　％	９７　　％	９２　　％

(2)　調査内容と実施教科

①　学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

②　生徒の学習に関する意識

１年　意識調査、国語、数学、社会、理科

２年　意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

３年　意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

(3)　実施日

平成２７年４月１６日（木）

Ⅱ　平成２６年度「授業改善プラン」の検証

⑴　成果

○　１年生を除き、全教科で、教科全体の達成率および観点別の正答率において、目標値を上回っており各教科で基礎・基本の定着が図られている。

○　２・３年生の同一集団経年変化を見ると、どの教科も年を追うごとに正答率度数分布が高い方へ移動しており、少人数指導が生徒の能力向上につながったと思われる。

⑵　課題

○　１年生で正答率が目標値を下回る教科、教科の観点がある。全ての教科で目標値を上回るようにする。

○　２・３年生で「基礎」「活用」に関する内容の達成率が目標値を下回った教科があった。基礎知識の定着と思考力、表現力を育てるように教材や指導法に工夫が必要である。

○　より魅力ある授業を展開するために、生徒全員に授業規律をしっかりと身に付けさせ、集中して授業に取り組む態度を育てることが必要である。

Ⅲ　目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

本校の授業改善に向けた方策

○　少人数・習熟度別授業(国・社・数・理・英)の効果的な活用により、生徒個々の習熟度に配慮した授業を展開し、思考力や表現力など、一人ひとりの能力の伸長を図る。

○　ＩＣＴ機器の効果的な活用など教材の工夫を推進し、生徒の興味・関心を高め、学ぶ楽しさを実感できる授業を展開する。

○　年５回以上の研究授業を実施し、魅力ある授業への工夫・改善を進める。

○　学区の小学校との教科指導における連携を深め、小中９年間のカリキュラムを見通して指導方法・内容等の改善を進めて、基礎基本の定着を図る。

○　適切な課題を課して家庭学習の習慣を身に付けさせるように指導し、基礎学力の向上、定着を図る。

十一中学校　第１学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等から みられる課題	授業改善の方策
国語	○「話すこと・聞くこと」の領域の達成率が下回っている。 ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、漢字の達成率が下回っている。また、文法・語句に関する知識も下回っている。 ○「読むこと」の領域では、説明文の達成率が下回っている。	○「聞き取りテスト」や「スピーチ」、「話し合い」を多く取り入れ、「話す・聞く」能力を高める。 ○毎週、漢字の小テストや単元ごとに漢字テストを行い、小学生で習う漢字の定着を図る。 ○文法の授業を継続に行っていき、基礎・基本を身に付けさせる。 ○説明的文章を読ませるとき、必ず要約する作業を取り入れていく。
社会	○『技能』（特に資料の読み取り技能）の向上を図る。 ○『知識』『理解』の育成と定着を図る。	○今まで以上に資料集や地図帳などを活用し、読み取りをさせる機会を多くする。 また単元ごとにグループワークを行い、資料から読み取った内容を発表させるなど言語活動を行いつつ、技能の向上を図る。 ○授業内で理解させることはもちろんだが、小テストを随時行い基礎レベルの知識の定着を図る。また繰り返し同じ問題を反復させることで、より定着させていく。
数学	○小数、分数が含まれる乗法、除法や四則計算の方法を理解すること。 ○図形の合同や平面図形の移動について理解すること。 ○数量の間の関係をつかみ表現したり解決したりすること。	○各単元において、小数・分数が出てくる問題を多く解かせるようにする。 ○図形の合同や平面図形の移動について実際の操作や作図を行うことを通じて理解を深めさせる。 ○さまざまな関数関係を式化することを通じて理解を深めさせ、式、表、グラフなどで表現ができるようにする。 ○多様な方法で表現されている問題について、幅広い考えで、解決できるようにする。 ○各単元の応用・複合問題で、既習の内容に立ち返りながら応用力、論理的思考力を養う。
理科	○自然事象ならびに理科という教科に対する関心・意欲・態度を育てる。 ○観察・実験の技能・表現を高めておく。 ○科学的思考力の向上	○導入や応用で日常生活と関連付けるなど興味や関心をもたせるように工夫する。 ○実験や観察を充実させ生徒の活動を増やし、興味や関心が引き出される授業を展開していく。 ○レポートでの考察の書き方や、発問の工夫をし、発想を豊かにするとともに考える力を養う。
英語	○モティベーションを向上させ、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度の育成 ○表現力の育成 ○語彙力と文法力の基礎・基本の育成 ○英語の文字と音との不規則性の克服	○ビンゴなど英語に親しむ活動を行い、興味・関心を高め、円滑にコミュニケーション活動に入れるようにする。 ○自己表現活動を促すモデルを多く提示する。 ○派生語、コロケーション（連語）、慣用句などの指導を取り入れ、語彙力、文法力を伸ばす。 ○フォニックス（綴り字と発音の関係を教える教授法）を適宜取り入れるなど常に文字と音との関連を意識させた指導を行う。

十一中学校　第２学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等から みられる課題	授業改善の方策
国語	○各領域とも目標値を上回っているが、読むことに関してはまだ十分とは言えないので、基礎・基本の徹底が必要である。 ○言語に関する項目（主に漢字、語彙力、文法力）の向上を行う。	○文章に親しむため、音読指導の徹底行う。 ○少人数授業のメリットを生かし、個に応じた指導を行い、基礎・基本の徹底に努める。 ○授業内で辞書を使った語句調べを行い、活字に触れさせ、語彙力の向上を図る。 ○週一回の漢字テストを今後も継続し、知識の定着を図る。 ○授業内で読む力、書く力を身に付けさせるため要約指導を行う。
社会	○『知識』『理解』のさらなる定着が必要である。 ○『資料活用』能力の育成が必要である。	○前年度に引き続き、必要語句の精選と小テストの随時実施により、基礎学力のさらなる定着を図る。知識に関連性をもたせることをなるべく意識させ、今年度から始まった少人数授業のメリットを生かし、生徒個々によりきめ細やかな対応をしていく。 ○資料の読み取り問題を適宜実施する。その際には資料から事実や特徴を正しく読み取ることができるように留意しつつ、少人数授業のメリットを生かし、より丁寧に指導していく。
数学	○数式の計算や一次方程式など、基本的処理能力を養い、関心・意欲を高める。 ○関数のグラフの意味を理解し、必要な情報を読み取ったり、表現したりすること。 ○資料の整理・活用の意義と手法について理解すること。	○導入や応用で実生活と関連付けるなど興味をもたせるように工夫する。 ○計算処理技能を定着させるため、ドリルに毎時間取り組ませる。 ○伴って変わる２変数の関係をいろいろな方法で表現し、理解を深める。 ・対応表、グラフ、式を用いて、関数関係を表現させる作業を行い、それらの関係を理解できるようにする。 ・グラフの意味、並びに方程式の解との関係を理解させ、グラフを用いて問題を解くことのよさを理解させる。 ○度数分布表、ヒストグラム、代表値、有効数字などについて理解を深めるため、データを加工して表現する活動を行う。
理科	○自然事象ならびに理科という教科に対する関心・意欲・態度を育てる。 ○科学的な知識と理解の定着。 ○科学的思考力の向上。	○導入や応用で日常生活と関連付けるなど興味をもたせるように工夫する。 ○実験や観察を充実させ生徒の活動を増やし、興味や関心が引き出される授業を展開していく。 ○問題演習ならびに課題を出し家庭学習をさせる。 ○レポートでの考察の書き方や、発問の工夫をし、発想を豊かにするとともに考える力を養う。

英語	○「言語についての知識・理解」では、基礎的な語彙や語形・語法の知識の充実を図る。 ○「理解の能力」については、「読むこと」・「聞くこと」において必要な情報を抽出する力を身に付ける。 ○「表現の能力」については、語彙や文構造についての知識を正しく用いて英作文する力を身に付ける。	○ビンゴを毎授業の中で行い、単語に親しみ、語彙の反復練習を行う。また100題スペリングテスト（英単語テスト）を定期的に実施する。 ○必要な情報を聞き取るための練習として、定期的にリスニング練習を行う。 ○長文の大意を捉え、必要な情報を抽出する力を身に付けるために、読み取りの副教材に定期的に取り組ませる。 ○既習の文法項目の定着を図るために、教科書のターゲットセンテンスを繰り返し練習させる。また、語彙力を高め、それらの知識を基に、スピーチ・スキット（寸劇）・英問英答などの表現力を試す活動を適宜行う。

十一中学校　第３学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	○各領域とも目標値を上回っている。昨年度課題でもあった「グラフから読み取った内容を書く」では、向上し、目標値を上回っている。 ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、上回っているものの、漢字を書く点で、まだ十分とは言えない部分がある。	○更に向上するために練習問題や応用問題を解く時間を設けたり、高校入試問題や実力問題などを解いたりする機会を増やす。そして、習熟度別の授業を生かして基礎・基本の定着も図る。 ○各課題に対して自分の意見や考えをもつ時間を設け、それを文章で書く活動を多く持つようにする。 ○小学生で習う漢字を読むために、中学校２年生で習う漢字を書けるように単元ごとに漢字テストや確認テストを行っていく。
社会	○『知識』『理解』のさらなる定着が必要である。 ○『活用』能力のさらなる育成が必要である。	○前年度に引き続き、必要語句の精選と小テストの随時実施により、基礎学力のさらなる定着を図る。これまでに習得した知識を再確認し、知識にできるだけ関連性をもたせることを目標にする。今年度から始まった少人数授業のメリットを生かし、生徒個々によりきめ細やかな対応をしていく。 ○獲得した基礎的・基本的事項を活用して、自分の考えを表現できるような問題設定を適宜行っていく。その際には考えるべき課題をはっきりさせ、課題に対して生徒個々がしっかりと向き合えるように留意する。 ○実力問題や入試問題演習の時間を適宜設定し、獲得した基礎的基本的事項を活用できるようにする。
数学	○基礎知識は十分あるので、技能を活用する力を育てること。 ○グラフの意味を理解し、必要な情報を読み取ったり、表現したりすること。	○各単元の応用・複合問題で、既習の内容に立ち返りながら応用力、論理的思考力、説明力を養う。 ○関数の定義に立ち返り、伴って変わる２変数の関係をいろいろな方法で表現し、理解を深める。 ・対応表、グラフ、式を用いて、関数関係を表現させる作業を行い、それらの関係を理解できるようにする。 ・グラフの意味並びに方程式の解との関係を理解させ、グラフを用いて問題を解くことのよさを理解させる。

理科	○論理立てて考える思考力を養う。 ○知識を応用する力を養う。	○イメージを図示したり力や電流、粒子など見えない物を粒や矢印で書いたりすることで、科学的な現象を順序立てて説明ができるような思考力を養う。 ○科学的現象や応用問題を取り上げ、言語活動を充実させ科学的現象を説明したり問題の解き方の方針を考えることで理解を深め応用力を養う。
英語	○理解の能力(読む力･聞く力)と言語に対する知識の充実を図る。 ○表現能力（書く力・話す力）の能力を高めていくことが必要である。	○「聞く力」を高めるために、「リスニングテスト」や「ディクテーション」（書き取り）を定期的に行い、対話文やまとまった内容の英文を聞き取り、必要な情報を整理し聞き取った内容に関する質問に正しく答えることができる力を養う。 ○単語力、語彙力増強を目指し、授業の始めに毎回帯活動としてビンゴを行い、２週間に１回程度の割合で定期的にビンゴで使用した４０問単語テストを実施する。 ○語句や表現、文法などの知識を活用して正しく英文を書く力の育成を図る。また、日頃から教科書の暗唱を評価活動に加え、表現の定着と向上を図る。